

温かい 繋がる 支え合う 学び合う  
山梨 YMCA 岡島デイサービスセンター



# ぶどうの木

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。ヨハネによる福音書15章5節



〒400-0031  
甲府市丸の内1-21-26  
甲斐物産ビル7F  
Tel・Fax:055-235-5021  
e-mail:grape@alto.ocn.ne.jp

ぶどうの木のご利用につきましては上記まで御相談ください。

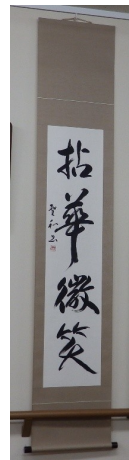
## ぶどうの木では今

不順な天候続きで、さくらの開花も遅くなりましたが、やっと満開の時を迎えました。ぶどうの木のアプローチ甲斐物産ビル7階のエレベーターホールからは、満開のさくらに包まれた舞鶴城の景色が広がり、何とも幸せな気分を満たされます。



「拈華微笑」(ねんげみしょう) これはこの三月、ぶどうの木で展示させていただいた書道家・功刀聖和(和喜子)さんの書による茶掛けの一幅です。

なんとも優しい女性らしいところ和む書です。一輪の花を差し出されて微笑む姿が目浮かびます。出典は『無門関』(禅の書)とのこと。花を手でつまむことを「拈華」と言い、「言葉で伝えるのではなく、むしろ無言の中に伝えるところがある。心の目は真実を語る…」と功刀さんは解説してくださいました。満開のさくらの見事さも、そっと差し出された一輪の花も人のところを揺り動かす力があります。



ぶどうの木では開所以来、室内の白い壁面を利用し、展示コーナーを設けています。既刊のぶどうの木ニュースでも毎回写真でご紹介していますが、身近な方々の作品を借用して展示させていただいています。

これまで展示させていただいた作品は、書・写真・水彩画・水墨画・版画・油絵・絵手紙・パッチワーク等々の力作ぞろいでしたが、やはり自然を描いたものが多く、中でも「花」を描いた作品が多くありました。ぶどうの木をご利用くださっている方々の作品は特に顔の見える関係の中で展示させていただき、そこに何時でも作者がいてくださるといっても贅沢な「もったいない」とも言えるギャラリーとなっています。目もこころも養われ、作品に纏わる話題も直接伺うことができ、楽しい話題にも発展します。これからも身近な芸術家の作品を楽しませていただきたいと願っています。

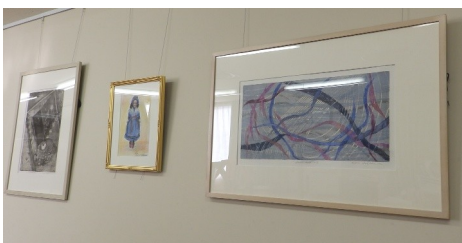
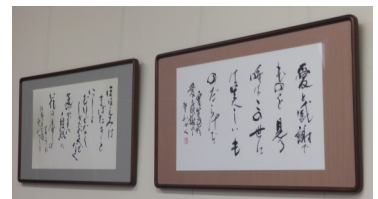
ぶどうの木には、もう一つ花に纏わる楽しみがあります。開所以来、室内やエレベーターホールには何時も花が飾られています。定期的にご自宅の庭の花を持参して下さるご利用者の方々、ボランティアや職員も多く、季節の花を年間通して楽しませていただいているのです。テーブルに飾られた花瓶の一輪に、朝いらっしゃったご利用の皆様の顔が綻びます。まさに、「拈華微笑」と言えましょう。お一人ひとりのところに広がる何かがあることでしょう。時に花瓶を近くに寄せてほのかな花の香を楽しみ、花の話題でひと時を過ごすことが多いのです。スケッチして下さる方もあります。一輪の花が醸し出す笑顔と温かな雰囲気にも包まれます。自然な天の恵みと花の定期便をお届けくださる皆様に感謝で過ごすぶどうの木の毎日です。

管理者 小野 興子



### ぶどうの木ギャラリー

2月4日～3月6日  
石川早苗様 銅版画・木版画展



3月7日～4月4日  
功刀聖和様 書道展



## 木に登れる有能な豚？

理学療法士 望月 貴美

ご縁があって、昨年の7月より利用様の「リハビリ」のお手伝いをさせていただくことになりました。

理学療法士として約20年、医療分野でのみの勤務でしたので、入院患者様の自宅復帰が大前提での「リハビリ」ばかりを行なってきました。そんな私が、既に自宅よりデイサービスに通われている利用者様にどんな「リハビリ」が提供できるのかと、9カ月前には入職することすら迷ったものでした。迷った理由は他にもありました。一つはまだ幼い子供が2人いること。もう一つは自宅で車椅子生活を送っている実母の介護も抱えており、勤務したとしても様々な場面でお休みを頂戴し、スタッフや利用者の皆様に迷惑を掛けてしまうだろうという理由からでした。

しかし一つの考えにこだわり過ぎると新しい道は開けてこないのではないかと思い、自分を実質以上に見せることはせず、ありのまま飛び込んでみようと考え直し入職を決めました。猛進してきた病院勤務とは異なり、ぶどうの木では穏やかな恵みが溢れているように感じ

ます。懸念していた通り、子供たちの行事や病気、また10月には実母を看取り、休みや早退等で迷惑を掛けている私に「皆で子育てすれば良いのよ♪」「迷惑は順番に廻ってくるから平気！」との温かい言葉をいただき、その恵に喜びを発見する毎日です。

惜しくも実母は亡くしましたが、何ということでしょう！ぶどうの木には姉のような、母のような、祖父母のようなスタッフや利用者様ばかり…。皆様のように我欲を求めず、地水火風の恵に常に感謝することは到底困難な私ですが、この世界に溢れている喜びはすべて、感謝する人の心にのみ感じられるものだとぶどうの木の新しい家族に教えてもらいました。

不躰な娘をこれからも厳しく叱り、また時々には褒めてもらえる木に登れる有能な豚になると思います。

ボランティアさん便り⑦

### 身内のように感じて

内藤 保子

私は、月に2回、食事の支度等のお手伝いをしております。11時前にはお部屋に入り、いつもの利用者さんのお元気な姿を見ると「アーお元気でよかったわ…」とホッとします。いつも何う曜日と同じなので、長い間には身内のような感じがいたします。

お昼の支度もお粥を作ったり、おかずを細かく切ったり、時には果物を添えたりと少しでもおいしく食べて下さればと思って準備いたします。食事の片付け、3時のおやつ準備等、出来る事は何でもやりたいと思っています。その間には利用者さんとお話したり、いろいろな遊びもしています。

昨年は、みんなでブドウ狩りを楽しみました。利用者さんにとっても青空の下でブドウを採ったり、おいしいお弁当を食べたりと、楽しい思い出の一時だったと思います。またこのような機会があればと思います。

僅かなお手伝いですが、高齢になっても何か皆様のお役に立てることができて本当に嬉しく思います。

### ケア塾「口腔ケアについて知ろう」

1月21日(土)利用者さん、ボランティアおよび職員20名の参加を得、日本老年歯科医学会山梨県支部長の歯科医師・花形哲夫先生を講師に迎え、学びの時を持ちました。

単に食べる、話すだけの役割を持つと考えられがちな口が、実は全身状態や認知症の発症への影響が大きいと、口腔ケアの重要性が語られました。ぶどうの木で、毎日行われている口腔体操の必要性も、再確認できた研修会でした。

### 第2回運営推進会議を開催しました

去る3月3日、平成28年度第二回ぶどうの木運営推進会議を開催いたしました。この会議は、本年度から「ぶどうの木」が「地域密着型通所介護事業所」として位置づけられたことによるものです。

ぶどうの木と地域の方々との良い関係を結びながら、この高齢社会を住み慣れた地域で最期まで穏やかに過ごすための方策を考え、実践していくためのものです。本年度第一回の会議は地域の皆さんにぶどうの木の役割や働きについてご説明し、地域の方々を知っていただくためのものでした。

二回目の今回からは地域の現状を私共も把握し、互いに顔の見える関係のなかで、具体的な連携が持てるように検討し、意見交換をしてみたいです。まだスタートしたばかりですから、具体的な内容を詰める段階には至りませんでした。この会議は地域の代表の方、ご利用者とそのご家族の代表の方に中心になっていただいていますので、きっとこれからは具体的なご意見をいただけるものと期待しています。

この会議が地域との接点を繋ぐ役割を果たしつつ、ぶどうの木も地域の方々との目線にそった役割を果たす施設へと発展したいと願っています。

(小野)

